

阿蘇山一周100kmチャレンジキャンプ ～大草原からの贈り物～

- [主催] 国立阿蘇青少年の家
- [後援] 熊本県教育委員会 阿蘇郡市教育委員会
- [期日] 令和2年8月9日(日)～15日(土)【6泊7日】(事前説明会:8月2日)
- [活動場所] 阿蘇市、南阿蘇村、高森町
- [参加者] 小学5年生～中学2年生 男子11名、女子11名 計22名
- [協力団体] 南阿蘇村ファームキャンプ、阿蘇市地域婦人会阿蘇支部 (食事プログラム)
- [担当職員] 有木園 和志(企画指導専門職) 佐藤 倫子(企画指導専門職)
前田 夢依(事業推進係員) 山川 昇椰(事業補佐員)
志賀 泰成(事業支援室主任) 堀澤 亮太郎(事業支援係員)
北見 靖直(次長)【救護担当】

1 趣旨

自然環境に恵まれた「阿蘇」の大地をフィールドとした長距離ハイキング等を通して、同じ目的をもった仲間とともに困難に挑戦し、最後までやり遂げる力を育むとともに、他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣を身につける。

2 目標

- 豊かな自然との触れ合いを通して、自然に対する畏敬の念や感動する心を育む。
- 寝食を共にし、共同生活をする中で、集団生活におけるルールを学ばせ、自立する心や協力する心を育む。
- 長距離ハイキングを通して、困難に挑戦し、最後までやり遂げる力を育む。

3 事業展開

研修プログラム

期日	行程						宿泊場所
Day1 8/9 Sun	第1話「物語の幕開け 仲間との出会い」 移動距離5.0km 累計5.0km 9:30 10:00 10:30 12:00 13:30 16:00 21:30 受付 開会式 交流の家 阿蘇神社 四季彩 入浴 夕食 就寝						四季彩 いちのみや
Day2 8/10 Mon	第2話「北外輪山から望む」 移動距離23.0km 累計28.0km 5:00 6:00 11:00 16:00 17:00 21:30 起床 四季彩 大観峰 かぶと岩展望所 入浴 夕食 就寝						長寿ヶ丘 公苑
Day3 8/11 Tue	第3話「二重峠の先に…」 移動距離6.7km 累計34.7km 5:00 8:00 11:00 14:15 14:45 21:30 起床 二重峠 阿蘇ファームト* 交流の家での班活動 入浴 夕食 就寝						赤水 公民館
Day4 8/12 Wed	第4話「VS 阿蘇五岳」 移動距離24.1km 累計58.8km 5:00 6:15 11:00 17:00 18:00 21:30 起床 阿蘇ファームト* 草千里 南阿蘇西小 夕食 入浴 就寝						南阿蘇西 小学校
Day5 8/13 Thu	第5話「澄んだ水のように」 移動距離17.1km 累計75.9km 5:00 6:00 11:30 15:00 16:00 21:30 起床 南阿蘇西小 明神池公園 月廻り公園 入浴 夕食 就寝						月廻り 公園
Day6 8/14 Fri	第6話「最後の難関」 移動距離18.1km 累計94.0km 5:00 6:00 12:00 15:00 17:30 22:30 起床 月廻り公園 日ノ尾峠 一の宮運動公園 交流の家 夕食 入浴 就寝						交流の家 キャンプ場
Day7 8/15 Sat	最終話「大草原からの贈り物」 移動距離0.0km 累計94.0km 6:30 8:30 10:00 11:00 起床 片付け 閉会式 解散						

活動の様子



4 成果と課題(○成果、◆課題と改善策)

- 「スタッフ全員がファシリテーターとして共通の意識を持ち参加者に関わること」「事前説明会で顔を合わせたこと」「開会式後に移動し非日常を演出したこと」が、参加者に自立的行動習慣を身につけさせることに効果的だった。
- 移動のペースを班に任せたり、テント班を活動班と同じにしたりするなど、班行動に重点をおいた設定にしたことで、昨年度に比べ参加者は深い人間関係を築くことができた。また、「自分で決める」「存在を感じる」「協力・協働」についての毎日の記録から、班によって波は異なるものの、全ての班で参加者一人一人のチーム内での成長が見られた。
- 「プログラム担当」「運搬、バス担当」「食事担当」「各班担当」「救護担当」等の役割分担を明確にすることで、主担当として、事業全体に視野を向けることができ、参加者に対してより充実したプログラムを提供することができた。
- 南阿蘇ファームキャンプ、阿蘇地域婦人会阿蘇支部の協力による夕食プログラムを設定したことで、食事や阿蘇の文化、キャンプ等について学ぶとともに、地域の方との交流を深めることができた。
- 「OS-1ゼリーを毎朝飲む」「30分ごとの水分補給」「移動中はマスクを外す」「早朝の涼しい時間から移動する」といった熱中症対策が効果的で、熱中症の症状が見られた参加者はほとんどいなかった。
- 日程変更におけるバスの柔軟な対応や、物品の補充、雨に濡れたテントの乾燥など、所の職員のバックアップがあってこそ充実した事業になった。
- ◆ 3日目、悪天候のため予定していた行程が通れず、合計100kmに到達できなかった。天候による部分は仕方がないのだが、霧が出やすく交通量の多いミルクロードや、雨に濡れて滑りやすくなる参勤交代の石畳など、天候に左右されやすい部分についてはコース設定時によく検討する必要がある。
- ◆ 移動のペースを班任せにしたことで、各班のスタッフ(ボランティア)が道が分からないという場面があった。少なくとも1回は全員の下見が必要である。また、同様の理由から、最後の班のゴールが予定より長くかかることが多かった。ある程度計画的に移動できるよう、事前に制限時間を設定する必要があった。
- ◆ ペグを打たなかったため、テントが強風にあおられる日があった。場所によって、打てないところもあったため、ペグを打つ日、打たない日の判断が必要だった。また、テント設営、片付け方、荷物のパッキングの仕方等長距離キャンプにおける知識を研修指導員にレクチャーしてもらうという方法も次年度検討する。
- ◆ 温泉施設は全てコロナ対策で人数制限があった。2グループ交代制で計画していたが、それ以上に一般の利用者も多く、入浴に時間がかかった。次年度以降もコロナが続くようであれば、入浴時間に余裕を持たせた時間設定や、日によっては入浴せずに体を拭くだけという計画を立てる必要がある。